

西町まちせん

ご存知ですか?まちづくりセンター

まちづくりセンターでは、町内会を始めとする地域のみなさんと連携しながら、さまざまなまちづくり活動を推進しており、地域課題の解決やコミュニティの活性化、ネットワークづくりに向けた取り組みをお手伝いしています。

今回のテーマは『地域の皆さんで取り組む地域の安全安心』です。

備えあれば…：『西区防災訓練』



9月2日(金曜日)、西園小学校(西野1条7丁目)で「西区防災訓練」が実施されました。これは、西区役所と町内会などの住民組織や各種防災関係団体・機関との相互協力体制の強化と、災害発生時における自主的な災害対応力の向上を図ることを目的に取り組んだものです。西町連合町内会のほか、福祉のまち推進センター、民生委員児童委員協議会及び西消防署、西消防団西町分団などから、約120人が参加しました。

まずは、西消防団西町分団が、町内会に配備されている防災資機材の使用方法を実演。「担架で人が人を運ぶときは、足の方を前に進むように」などの説明に参加者らは熱心な様子で聞き入っていました。

AED(自動体外式除細動器)の実技講習では、参加者が二人一組になって一人が人工呼吸と胸部圧迫、もう一人がAEDの操作を行いました。消防団員から、人工呼吸で息を吹き込む強さや、AEDの電極パッドを貼り付ける位置などについて説明があり、実際の場面を想定して懸命に取り組む参加者の姿が見られました。

また、非常食体験として、お湯を入れて20分ほど待つだけで食べられるようになる五目御飯と、クラッカーが参加者全員に配られ、口にしたら参加者は「意外といけるね」「おいしい」などと話していました。

地域で取り組む安全安心：西町地区町内会長・民生委員児童委員合同交流会



11月24日(木曜日)、西町まちづくりセンター(西町北6丁目)で、西町地区の各町内会長と民生委員児童委員が一堂に会して交流会が行われました。

これは、交流を通じて地域の課題を共有し、住民同士が支え合う環境を整え、誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指すと、毎年開催され今回で14回目となります。

今年は、「東日本大震災での被災地支援を通して～災害時に生きる日常の支え合い活動とは～」をテーマに合同研修が行われ、これまでに4回被災地を訪れている札幌市社会福祉協議会ボランティアセンター所長の山下雅寿(やました・まさとし)さんが講師を務めました。山下さんからは「札幌で

も震度6強の地震が起きる可能性があり他人ごとでは済まされない」「一人で避難することができない人は地域には必ずいる。そういう人を誰が助けるのか、家庭や近隣で話し合っておくことが必要」との話があり、参加者はうなずきながら真剣な表情で聞き入っていました。

【まちセン所長のコメント】

今年度の西区防災訓練は、西町地区が8年に一度の当番でした。一方では、3月11日の東日本大震災を契機に、今後の連合町内会の重要な取り組みとして防災対策について掲げました。このような動きもあり、連合町内会を中心に、訓練本番までに、4回にわたり防災に関する勉強会を開催。「①災害を知る」「②防災計画を知る」「③まちを知る」「④人を知る」ことを意識して、防災に関する知識の習得に努めてきました。このように、一つひとつの積み重ねが防災力、地域力へとステップアップされると考えます。

三連合町内会の情報交換！

11月17日(木曜日)、西野地区センター(西野4条2丁目)で、西町、西野、昭和の3つの連合町内会による「西区情報交換会」が行われました。

これは、地区内の住民組織と行政が意見交換を行うことにより、地域の課題を共有し、相互理解と親睦を深めることを目的として昭和59年度から行われており、今年度は「福祉活動の取り組みについて」をテーマとして開催されました。

始めに来賓あいさつの後、現在改定作業が進められている「札幌市地域福祉社会計画」について、札幌市保健福祉局の藤田慶一(ふじた・けいいち)地域福祉推進担当課長による講演が行われました。「札幌市は今後、確実に高齢化が進みます。このため、これまで以上に地域における横のつながりを強めたいというのがポイントです」など、今回の改定について分かりやすく説明が行われました。

続いて、西町連合町内会の「こころ・ふれあい交流会」や昭和連合町内会の見守り安否確認活動など、各連合町内会から福祉活動に関して報告が行われました。また、三連合町内会が連携して取り組んで平成18年度から6年間で2,700株のあじさいの植樹を進めてきた「あじさいの里づくり事業」について西野連合町内会が、さらに「交通事故追放総決起大会」について西町連合町内会が発表するなど、福祉活動と併せて活発な活動の様子がうかがえました。